

第 4 回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ

山田 修一 安全衛生 WG (総合安全・情報管理技術分野)

吉田 昌弘 安全衛生 WG (副技術長 (安全衛生・環境管理担当))

長岡技術科学大学 技術支援センター 2 名

1. はじめに

平成 27 年 9 月 18 日 (金) に茨城大学工学部技術部主催で、第 4 回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップが茨城大学工学部小平記念ホールにて開催され、本学技術支援センター安全衛生 WG から山田、吉田の 2 名が参加し、山田が「長岡技術科学大学の安全管理と技術支援センターの関わり」と題して講演を行った。

本ワークショップは、大学等で安全管理業務に携わる技術職員が日常の業務で蓄積した情報の交換や討論を通して技術や知識を高めるとともに、職員間の交流を深めることを目的としている。当初は埼玉大学、宇都宮大学、群馬大学、茨城大学の技術職員有志により発足したものであり、第 4 回である今年度は、茨城大学工学部にて開催され、12 機関、38 名が参加した。

今回のメインテーマは、「各大学・高専における安全管理」で、5 件の安全管理活動についての講演とフリーディスカッションが行われた。

2. 参加機関と参加人数

| | | |
|--------|------------|------|
| 埼玉大学 | 総合技術支援センター | 5 名 |
| 群馬大学 | 理工学系技術部 | 3 名 |
| 宇都宮大学 | 工学部技術部 | 2 名 |
| 筑波大学 | 総務部安全管理課 | 1 名 |
| 茨城大学 | 工学部技術部 | 14 名 |
| 群馬高専 | 教育研究支援センター | 2 名 |
| 茨城高専 | 技術教育支援センター | 2 名 |
| 小山高専 | 教育研究技術支援部 | 4 名 |
| 東京工業大学 | 技術部 | 1 名 |
| 横浜国立大学 | | 1 名 |
| 新潟大学 | 工学部 | 1 名 |

3. ワークショップの概要

3 大学 2 高専から 5 件の講演があった。各講演について質疑応答が行われ、すべての講演の後さらに踏み込んだディスカッションが行われた。最後に各大学・高専における安全管理業務に関するフリーディスカッションが行われた。

以下に講演の要約を記す。

(1) 「群馬高専機械工作実習工房における KYT の試み」～視覚から KYT を学ぶ～ 群馬工業高等専門学校教育研究支援センター 浅見博

群馬高専の機械工作実習工房では、体系的な安全教育活動としての KYT とヒヤリ・ハット事例の収集・活用に関する報告があった。KYT (Kiken Yochi Training : 危険予知訓練) は、技術職員が中央労働災害防止協会の KYT 基礎 4R 法の講習を受講し工作実習に適用した。ヒヤリ・ハットは、KYT 実施後のアンケートで 53% が経験していることが初めてわかり、再発防止の観点からコメントを添えて工場内の掲示板にて多くの利用者の目に触れるように工夫した。今後は実習作業中の災害 0 件を継続させるべく KYT 基礎 4R 法を活用し、ヒヤリ・ハットデータの有効活用についても検討していく予定が報告された。

(2) 「長岡技術科学大学の安全管理と技術支援センターの関わり」 長岡技術科学大学技術支援センター 山田修一

技術支援センターでは、教員・事務局職員と連携して積極的に安全衛生管理活動に取り組んでいる。本発表では、安全衛生ワーキンググループ、安全衛生巡視、安全衛生管理委員会、w-SDS の実施、薬品管理支援システムの運用、低

圧電気取扱業務特別教育，防火対策委員会専

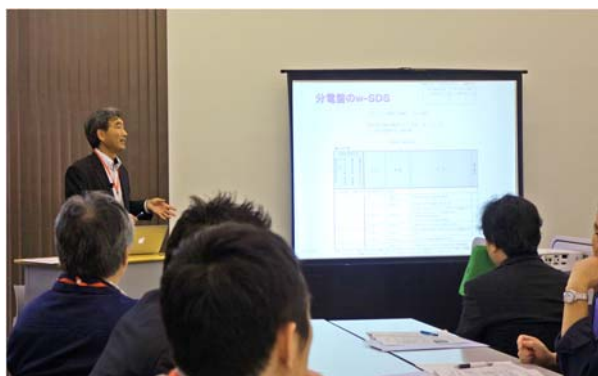


図1 講演の様子

攻部会委員，安全自主点検，レーザー機器装置の設置状況等調査，高圧ガス等に関する調査協力について講演した(図1)．会場からはw-SDS，薬品管理システムへの技術職員の係わり等について質疑があった．

(3) 「ものづくりセンターにおける5Sの取り組み」 小山工業高等専門学校技術室 古谷渉

技術室の「安全衛生プロジェクト」の一環として溶接実習場をモデル実施場所とした5S活動の推進について報告があった．5S実施では，安全衛生コンサルタントによる研修を受講し，さらに各企業や工業高校の見学調査を行い，①床の直置き物品の片付け，②仕上げ台の物品片付け，③溶接機配線の改善，④局所排気装置の囲い用シートの清掃について改善を試み等について報告があった．

(4) 「群馬大学桐生事業場におけるオートクレーブ・遠心機の自主点検について」 群馬大学理工学系技術部 木間富士子

オートクレーブと遠心機の自主点検は1年に1回実施しなければならないことが報告され，対象となる装置を調査し，専門業者による自主点検講習会を実施し，実際に取り扱う研究室が点検を実施できるようにしたことが報告された．

(5) 「埼玉大学 安全管理プロジェクト活動報告」
—ヒヤリ・ハット事例集作成について— 埼玉大学研究機構総合技術支援センター 加藤美佐

安全衛生管理プロジェクトの活動の中からヒヤリ・ハット事例集の作成について報告があった．事例収集には身近な教職員に声をかける方法が多く情報を得ることができ，収集データはMS-Excelでデータを整形して活用した．このヒヤリ・ハット事例集は2011年，2015年に発行しその一部が実験・実習安全の手引きに掲載され利用されている．今後はデータの収集方法を検討し継続的にヒヤリ・ハット事例を公開していく予定であることが報告された．

(6) フリーディスカッション

講演テーマを中心として主に以下の内容について情報交換された．

①ヒヤリ・ハット事例の分析を行い，ハードの対策か教育や運用で対応可能かを検討し対策する必要性，②安全対策等に対する評価をどのようにすればいいか，③最新の安全に関する情報収集方法．④参加大学からの安全に関するコメント．

最後に本ワークショップは，来年度も茨城大学で開催することが発表され閉会となった．

4. ワークショップに参加して

ワークショップに参加して感じたことは，参加した大学・高専の横のつながりが強くなってきていることである．

今後もこのワークショップに参加し，他大学の安全管理活動についての多くの情報を持ち帰り，業務に生かすことは大学の安全管理にとって大変有意義なことである．今回参加して得られた知見を今後の安全管理活動に生かしていきたい．